

今年こそ

市川茂子

くる年も、くる年も新年を迎える度に、思いつづけて年月を過ごして来た。年齢を重ねるごとに、身の回りのことが気がかりになる。

他にもいくつかの課題や事情などがあることはともかくとして、押し入れの中にある物を整理できないことである。息子に言うと、後でまとめて片付けるようになるのだから、そのままにしておけと言う。押し入れにある物だけでも、始末しておきたいのだ。

日を決めて整理しようとする、急に仕事が出て後回しになる。その繰り返しで、時が過ぎてしまふ。本当に時間がなかったのかと、自問自答しながら、面倒なことはそのうちにと言っているだけだった。

次々に押し込まれた、過ぎし日のなつかしい思い出のものや、プレゼントされた品々など、封印されたようになっていく。

折節に取り出してみながら、部屋に飾っておきたいと思うものもあるのに、独り暮らしになると、必要なものだけあればいいのだから、あれこれ考えるだけでも詮ないことだと思ってしまう。今年こそは片付けたいのが、衣類やカバン、バッグなどが集まっているところで、プレゼントされた品物が多くあるので、何とかしなければと思いつつながら複雑な気持ちになる。

以前は、使わない品物があったら、どんな物でもいいから買い取りたいという電話があつて、何回も出していた。忘れたころにまた電話が来る。その度に迷ってしまうが、結局は断っている。

今年こそは身軽になれるように、少しずつでも選別しておきたいとあせっている。こたつから出て立ち上がったって、窓に当る暖かい日差しを浴びると、座り込んでしまう。また先延ばしになりそう。

一日の時間がまたたく間に過ぎてゆく。身の回りの些細なことに思いわずらうとは、何とも愚かなことだ。外へ出て自然の息吹を感じながら散策するのも、一つの楽しみにしている。もう一度言ってみたいところや、あそこも、ここもと浮かんでくる。

出来ないことを並べるよりも、今出来ることから始めなければ、今年こそと、言っているうちに惚けてしまふそう。